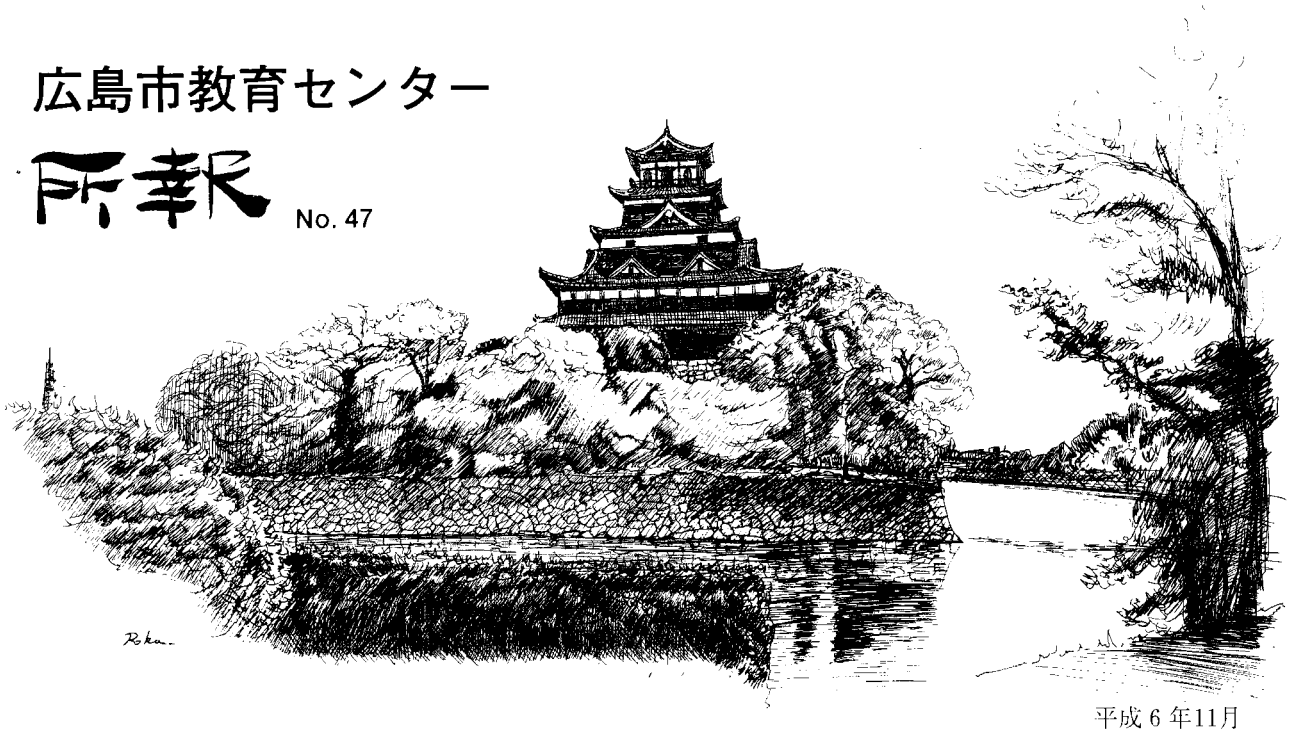
広島市教育センター
所報 No. 47



平成6年11月

『自信を育む』落とし穴

武蔵野音楽大学講師　関　根　正　明

子どもに自信を持たせたいと思わぬ教師はあるまい。そして『やってみせ，言って聞かせて，させて見て，ほめてやらねば，ひとは動かじ』ではないが，その子のよさをほめることだなどと，だれもが言うだろう。

子どものよさを見つけるのは教師の能力の一つだという。が，ほめさえすればいいのか，それはおだてにならないか，という気もする。

それを考えるのに，今，教師の自分にどんな自信があるのか，自問自答してみよう。

私は何かに自信はもちたいが，自分がそれに「自信がある」などと口にしたとたん，それはもう「うぬぼれ」になってしまうのではないかと思う。それは私の中学時代の苦い体験が後を引いているからである。

当時，私は数学なら大丈夫という自信があった。私は友達が青くなって試験勉強しているのを横目で見てニヤニヤしている鼻持ちならないヤツだった。油断大敵。奢る平家は久しからず。それが「あアッ！」と失敗に気付いたときは，後の祭り。答案が返って来たときに真っ青になった。それがまっさらな零点。

そのとき数学のN先生が「0点でも100点でも，それはレッテル。中身はレッテルが変わっても変わりはせん。レッテルにショックを受けてるのは，実力がないからだ」とひとこと。頭にカッと血が昇っていた私は意味が分からなかった。だが今でも忘れられないのだから腹にズシンとこたえていたのだろう。

その後，私は『自信とうぬぼれ』なる幼稚な文章を校内誌に書いた。奢った自分を懺悔し，叱咤したつもりだったのだろう。

『良薬は口に苦し』でこの体験は，それからの私のものの考え方についてまわっている。

自信とは「あいつは自信あり気だ」と他に感じるもので，「俺は自信があるのだ」と自分に暗示をかけ自分を鼓舞するのはイイとしても，「これには俺は自信がある」と公言して憚らないのはみっともないことだ。

そうだとすれば，この恥かき話は，教師が子どもに自信を持たせるのに何を配慮したらよいかを考えるヒントぐらいにはなろう。

うぬぼれて，いい気になっていた私に，謙虚さを教え，育ててくれたN先生こそ，数学を通して人間を教えてくれた方であった。

編集・発行　広島市教育センター　〒732 広島市東区牛田新町一丁目17番1号　☎（082）223-3563

研究紹介

小学校音楽科における即興的な表現の指導法

—第4学年「つるのおん返し」の授業実践を通して—

広島市教育センター主任指導主事　井崎　明

小学校音楽科では学習指導要領の改訂にともなって「つくって表現する」指導が始まりました。「児童一人一人のイメージに基づいて自由な発想のもとに即興的に表現する」ものです。本研究は，その指導法を授業実践を通して探ったものです。研究の中から，指導のポイントになる点を紹介します。

学習過程

児童自身のイメージをもとに児童自身が表現をつくり上げていけるよう，次のように学習過程を構想しました。

学習の段階	学習活動
イメージの喚起	・テーマについて話し合い，様々なイメージをもつ
音楽的なイメージの形成と表現方法の発想	・表現したい音のイメージをつくる ・表現の方法を考える
イメージの具体化（表現の試行錯誤）	・表現の方法を音で確かめる ・音を探したり，選んだり，つくったりして即興的に表現する
イメージの共有化（話合いと練り上げ）	・音の素材を持ち寄り，共通のイメージをつくる ・音の構成をし，表現を練り上げる
イメージの深まり（発表と意見交換）	・意見交換し合って表現を推敲する ・音楽の要素を検討する
イメージの確かめ（発表と鑑賞）	・音楽の要素と表現とのかかわりに気を付けて表現のよさを味わう

教室環境

教室は児童の自由な発想をうながしやすい雰囲気とヒントに満ちた環境でありたいものです。そのため，机を取り払って広いフロアを生み出し，次のような楽器や音の素材を準備し自由に触れることができるようにしておきました。

ピアノ，エレクトーン，アンサンブルオルガン，足踏みオルガン，木琴，鉄琴，グロッケン，バーチャイム，ミュージックベル，打楽器類（大太鼓，小太鼓など），ラテン楽器類（カウベル，マラカスなど），カウベル（民芸品），鳴子，竹（大小），ワイングラス，米つぶを入れたかん，空かん，空瓶，お椀，しゃもじ，発泡スチロール，ビニル袋（大小各種）など

発問，助言等の支援

児童が自己のイメージの実現に向かって活動できるように教師は支援します。具体的には次のようなものを中心にしました。

・児童自身のイメージを振り返らせる
・どうすればよいかと全体に投げかけて創造的な思考をうながす
・児童の発言を繰り返したり評価したりする中で，音楽の要素の働きに関心を向けていく
・楽器の使い方や表現の方法などについて気付かせる

この学習で児童がどのようなことを学んだか，児童の感想を紹介します。

・音づくりがこんなに楽しいとは思いませんでした
・簡単だと思っていたけどやってみると難しい
・一生懸命やるとそれらしい音が出ると分かった
・音で場面が表せることに初めて気が付いた
・一つの楽器でこれだけいろんな音ができていろんなふうに使えることが初めて分かった
・強さや速さが変わるとイメージが変わる

児童はイメージを追求して工夫したり友達の工夫に触れたりする中で，音楽の諸要素の働きを生き生きと感じ取っています。さらに自分の表現に生かすことや，音楽がかもしだすイメージと要素の関係を判断することができています。

即興的な表現のねらいは，児童自ら音楽をつくって表現する能力，つまり，音楽の諸要素（リズム，旋律，重なり，速さ，強さ，音色，形式）の働きを感じ取り，聴き分け，生かして表現し，判断する能力を育てることだと言えます。児童は，自分の描いたイメージが聴く人に伝わるように表現するために，音を探し，音の組み合わせを工夫し，奏法を工夫しました。その中で，ねらいである音楽的能力を培うことができたと言えます。

話題の広場

着目しましょう　算数科(小)

○ 操作活動，ことば，図，数式のよさ

最近の授業では，児童一人一人が操作活動やことば，図，数式などを駆使して自分の考えを表現できるように指導が工夫されています。

しかし，児童の表現に対する指導・助言では，正しく考え問題解決できたことや考え方の手際よさなどについて取り上げることが多く，表現の手段そのものについて評価することには，あまり着目していないようです。

そこで，操作活動，ことば，図，数式のよさが分かるように，「絵をかいたからみんなによく分かったね」「図をこう直すともっと分かりやすくなるよ」「このことばを使えばもっと分かりやすい説明になるよ」といった支援の言葉がけを工夫したいものです。

育てましょう　英語科(中)

○ 積極的な態度

指導要録の観点別学習状況の観点の一つに「コミュニケーションへの関心・意欲・態度」があります。

これは，積極的にコミュニケーションを図ろうとする時に生徒が表す要素（うなずき等）を抽出して，それらを評価していくものです。

ここでいう積極的な態度は，コミュニケーション能力とは違う表れ方をすることに留意し，これを表す要素を含んだ言語活動などを仕組んで指導する必要があります。その指導をもとに，生徒の活動状況を観察補助簿や評価カードなどにより，できるだけ簡便な方法で，客観的に，長期的に記録し，総合的に評価するよう心がけるとよいでしょう。このようにして，生徒に積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を開花させましょう。

取り入れてみましょう　公民科(高)

○ ディベート

今，「ディベート」が注目されています。ディベートを取り入れた公民科の学習は，一つの問題について賛成派と反対派に分かれ，相互に意見を主張し合うことを通して，その問題の背後にある多様な見方・考え方の相違を明らかにし，その中から問題解決の方法を探るものです。そして学習の過程で，主張するための資料を収集したり分析したりする活動を活性化させ，多角的に思考し，客観的に判断する力を育てるのです。

現代社会の基本的な問題に対する判断力の基礎を養う公民科の科目の一つである「現代社会」においては，特に，有効な方法であると考えます。取り入れてみましょう。

求められています　幼稚園

○ 幼稚園教育とカウンセリングマインド

カウンセリングとは，相談者がカウンセラーの援助を受けながら，心の問題を解決していく過程を指します。

この過程では，温かい信頼関係をつくることが重要とされています。そのためカウンセラーは，相手のありのままの姿を温かく受け止め，共に考える姿勢すなわち，カウンセリングマインドを大切にしたかかわりをしています。

このようなかかわりは，幼稚園教育において，幼児の言動や表情から，幼児が何を感じ何をしたいのかを見取り，援助する教師の姿勢と共通している点があります。

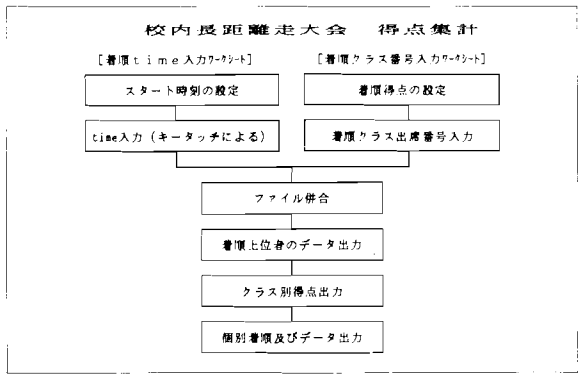
これからの幼稚園教育では，一人一人の教師がカウンセリングマインドを身に付けることがますます求められています。

研究協力校紹介

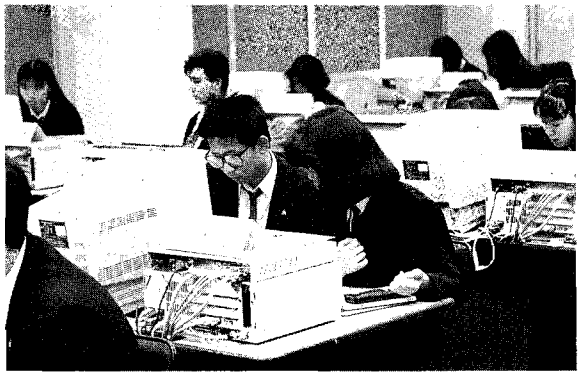
普通科高校でのコンピュータ利用

広島市立安佐北高等学校教諭　**阿部　修三**

生徒には，「まず触ってみよう」，先生には「まずコンピュータ室で授業をしてみよう」から始まったＣＡＩの授業。４年前は「コンピュータ室で授業をしよう」と言うと「わあ，やったあ」と声をあげ，おそるおそるコンピュータに触っていた生徒も，最近では戸惑うこともなく楽々と操作するようになりました。コンピュータが目新しいものから，学習するための道具に変わってきたことを実感させられます。また，教師が試行錯誤しつつ利用することで，生徒は隣の生徒と教え合ったり，自分のペースで操作を進めたりする，普段とは違った生き生きとした積極的な姿を見せるようになりました。ＣＭＩ的利用も含め，学校でのコンピュータ利用は日常のものになりつつあります。



学校行事での活用



授業の様子

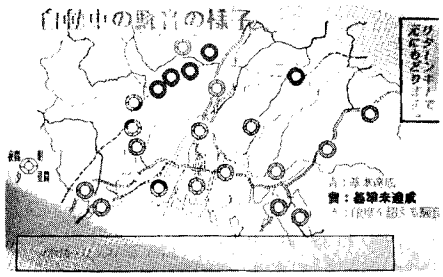
広島市教育センターが開発したＣＡＩソフトの紹介

教育センターでは，コンピュータの教育利用に関する研究の一環として，学習ソフトの開発を行ってきました。その中から平成５年度に開発した学習ソフト「広島市の環境の様子」を紹介します。

この学習ソフトは，小学校社会科第５学年「工業生産と公害」の学習で，教科書，資料集などとともに児童が主体的に活用できる資料の一つとして作成したものです。作成に当たっては教材作成支援ソフト「ＦＣＡＩ」を活用しています。

内容は，広島市の環境についての学習に必要な資料が，「自然環境」「社会環境」「公害」「むずかしい言葉調べ」の４項目で構成されています。広島市の土地の様子，風向き，人口密度，土地利用，主な道路，下水道の様子，大気汚染，自動車の騒音，水質汚濁などに関する資料や用語の解説を必要に応じて画面に取り出せるようになっています。

この学習ソフトを使うことにより，児童が必要な資料を取捨選択しながら活発な学習活動をすすめることができます。



═ 教育相談室から ═

Q おこたえします A

学級のなかでいじめられる生徒

Q　中学校1年生の学級担任です。近ごろある生徒の表情が暗く元気がないことに気付き，様子を見ていました。どうもクラスの生徒からいやがらせをされたり，からかわれたり，仲間はずれにされたりしているようです。

本人にそのことを聞いても何も話してくれないし，他の生徒に聞いても「知らない」と答えます。どのようにすればよいか悩んでいます。

A　最近，いじめが増えてきています。いじめの形態は，集団化，陰湿化しています。具体的にはみんなで一人の生徒をいじめるのです。「○○さんに触ったらきたない」「○○君は臭い」など，心をひどく傷つけるようなことを言ったり，わざと避けたり，ふざける格好で乱暴したりします。

いじめにあっている生徒は，いつもビクビクして学校生活を送ったり，自分へ向けられる言動に過剰に反応したりするようになります。いじめが毎日繰り広げられると，休み時間になると保健室に避難するとか，不登校になるとか，自らの命を絶つことさえ起こりうるものです。

いじめは日ごろの観察で発見できる

今回，先生がいち早く気付かれたことは，いじめにあっている生徒にとってほんとうによかったと思います。早く気付かれたのは，きっと日ごろから子どもの表情，学習意欲や態度，校内での行動などをよく観察され，保護者や他の教師からの情報をしっかり受け止めておられたのでしょう。

いじめにあっている生徒の気持ちを受け止める

いじめが巧妙化している今日，中学生ともなると自分がいじめにあっていることを訴えると，「告げ口した」と言われ，かえってひどくなることを知っており，自分からは容易に話さないものです。教師に求められるのは，無理に聞き出そうとせず，本人の気持ちをしっかり受け止め，どのようにしたらよいか一緒に考える姿勢です。また，いじめにあう生徒は自分に自信がなかったり，自分を否定的に見たりすることが多いものです。本人のよいところをほめ，少しずつ自信を持たせることも必要です。

いじめている生徒の心の底を理解する

いじめている生徒には，いじめの行為は重大なまちがいであることに気付かせ，言動の改善を図ることが必要です。そのためには行為として表面化した現象だけを見て，「いじめはいけない」と指導するのでなく，いじめている生徒の心の底にある寂しさやストレスを理解し，受け止めることが大切です。また，学級の生徒には，いきなりクラス全体で話し合わせるのでなく，一人一人の生活をよく把握し，問題があれば個別に話し合うほうが効果的です。

いじめの解決にはより多くの人の協力を得る

学年の他の教師と相談するとともに，場合によっては指導してもらうなど，より多くの教師で取り組まないと解決しないものです。同時に保護者の協力を得ることが大切です。特に関係する生徒の保護者には，いじめの事実と問題の解決に向けての学校の取り組みを説明し理解と協力をお願いします。その際，保護者にとっては思ってもいない問題ですから保護者の複雑な心境を理解する必要があります。

このように，いじめの問題への取り組みは，教師がいじめの構造をよく把握して適切に対応することが求められます。

広島市教育センター　教育相談室（082）223-4420

教育センターひろば

平成6年度教育研究

教育センターでは，指導主事が継続的に教育研究を行っています。本年度取り組んでいる研究をご紹介します。また，研究を進めるに当たっては次の先生方に研究協力員をお願いしています。

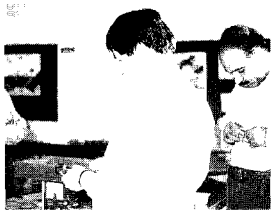
平成6年度教育研究

研究領域（担当）	研究主題	研究協力員氏名（所属）
理科教育（松浦俊雄）	中学校理科における表現力を育てる学習指導に関する研究	荻野孝太郎（福木中） 住吉　磨（祇園中）
美術科教育（福原正明）	中学校美術科における複合的題材の開発	大津かおり（楠那中） 安武　修（東原中）
技術・家庭科教育（江田英俊）	技術・家庭科における生徒の主体的な学習を促す指導に関する研究	荻野　哲也（大州中） 長谷川　洋（井口中）
外国語（英語）科教育（松脇守弥）	中学校外国語（英語）科における指導と評価に関する研究	賀川　奈苗（可部中） 東岡　理恵（亀山中）
幼稚園教育（宮脇いち子）	教師の幼児理解と援助に関する調査研究	都甲　得恵（温品幼） 財満由美子（亀崎幼）
障害児教育（中尾秀行）	学習に著しい困難が見られる児童の指導に関する研究	友田　圭一（井口小） 長藤　謙三（可部南小）
教育相談（三原裕隆）	生徒の相互理解を図る教育相談に関する研究	岸業　康成（江波中） 三村　千秋（戸田中）
教育相談（松田了二）	学校における教育相談の在り方	田本　真（五日市小） 瀬尾　洋子（己斐中）
平和教育（井崎　明）（越智文嗣）	広島市の子どもの意識に関する調査研究	西谷　栄（中島小） 廣藤　誠（本川小） 西山　克行（早稲田小） 登　長夫（牛田小） 浦上　千歳（国泰寺中） 神原　一之（観音中）
学習指導（財津伸子）（木村正信）（尾形慎治）	個に応じた指導の充実をめざす効果的なティームティーチングの在り方	長原　和子（本川小） 竹中　幸子（舟入小） 平田　健三（段原小） 濱西　文子（宇品東小） 高西　実（山本小） 中本　春美（落合東小） 斎藤　隆登（上田東小）

題字　広島市立国泰寺中学校校長　松陰　正行
表紙絵　広島市立中野東小学校校長　六島　宏

ニュース

10月24日から3日間，アジア諸国等の6名の理科の先生方が教育センターにおいて，科学教育実技研修を受けられました。



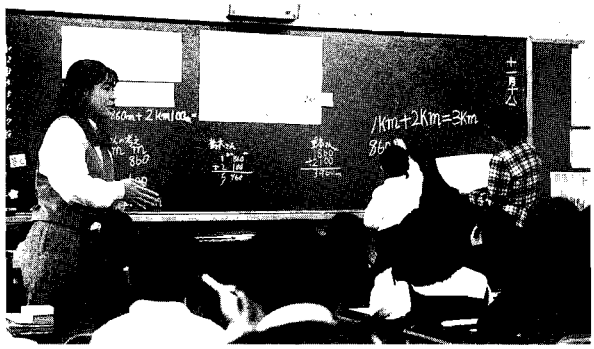
専門研修（平成6年10月～平成7年3月）

今年度後期は次の6名の先生方が，それぞれの専門分野で研修を進めておられます。

理科教育：峯　哲士教諭（大河小）
音楽科教育：橋本　雅樹教諭（井口明神小）
図画工作科教育：宮本眞弥子教諭（戸浦小）
社会科教育：横山　善規教諭（己斐上中）
教育工学：高橋　哲男教諭（牛田中）
教育相談：森田　賢三教諭（安佐北高）

情報スナップ

学習指導講座（ティームティーチングによる学習指導）



編集後記

年内も余日が少なくなり，あわただしくなってまいりました。

今回は，巻頭言を教育相談講座に来ていただいた関根正明先生にお願いいたしました。指導の充実にご活用ください。

広X6－94－051(4)